

第6章 住民の意向

1 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、本計画に市民の意見を反映させるために実施しました。

日常の行動範囲や地域の暮らしやすさ、まちづくりの課題等についてうかがい、地域住民の意見・意向を把握・分析し、未来に向け持続可能な社会整備の基盤となる本計画に定めるべき課題や視点を抽出することを目的としています。

(2) 調査の実施概要

調査結果は、以下のとおりです。

項目	区分	配布数	回収数	回収率
調査対象	松浦市在住の 20 歳以上の市民を対象に無作為抽出	2,000 票	628 票	31.4%
調査期間	令和5年11月6日～令和5年11月17日			
調査方法	郵送による留置き回収法			

※配布数に関しては、統計学上の有意性が確保される回収数（400票以上）となるよう設定しました。

調査の分析結果を読む際の留意点は、次のとおりです。

- 調査結果の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 「N」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 百分比による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図表の数字はすべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位まで表記します。このため、各項目の合計が100%にならないこと、複数項目の合算値が0.1%の範囲で異なること、複数回答の設問では各項目の合計が100%を超えることがあります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果又は回答者が皆無であることを表します。
- 図表中の「不明」は回答箇所が空欄又は質問と異なる回答（単一回答の質問に複数回答があった場合など）であったことを示します。

2 調査結果

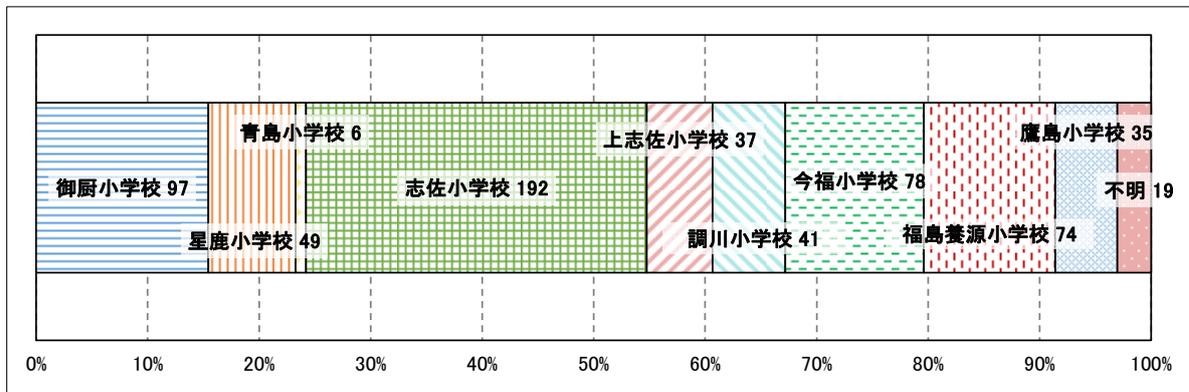
(1) 回答者の属性

① 居住する地区（小学校区）

小学校区別の回答者割合は、「志佐小学校」が 192 人（30.6%）と最も多く、次いで「御厨小学校」が 97 人（15.4%）となっています。

N = 628

項目	件数	(全体)%
御厨小学校	97	15.4
星鹿小学校	49	7.8
青島小学校	6	1.0
志佐小学校	192	30.6
上志佐小学校	37	5.9
調川小学校	41	6.5
今福小学校	78	12.4
福島養源小学校	74	11.8
鷹島小学校	35	5.6
不明	19	3.0
合計	628	100.0

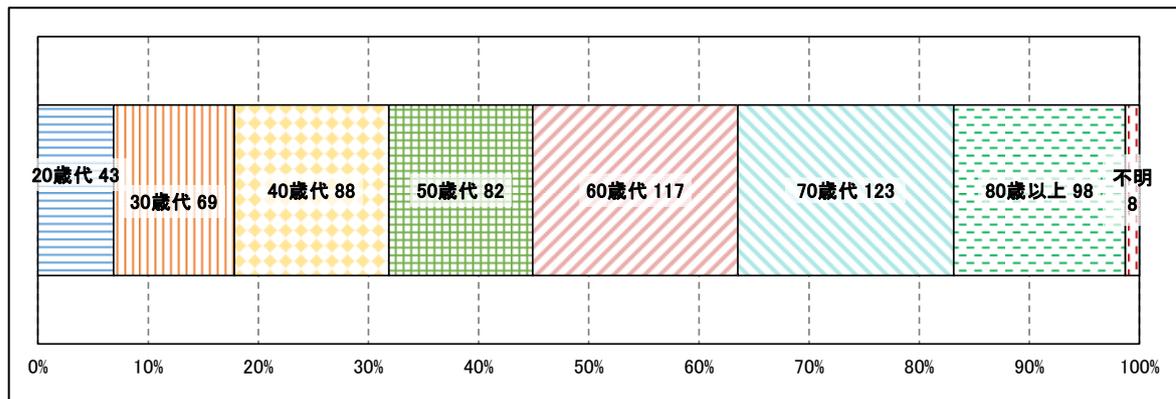


② 年齢

回答者の年齢は、「70歳代」が123人（19.6%）と最も多く、次いで「60歳代」が117人（18.6%）、「80歳以上」が98人（15.6%）で回答者の半数以上の人が60歳以上となっています。

N = 628

項目	件数	(全体)%
20歳代	43	6.8
30歳代	69	11.0
40歳代	88	14.0
50歳代	82	13.1
60歳代	117	18.6
70歳代	123	19.6
80歳以上	98	15.6
不明	8	1.3
合計	628	100.0

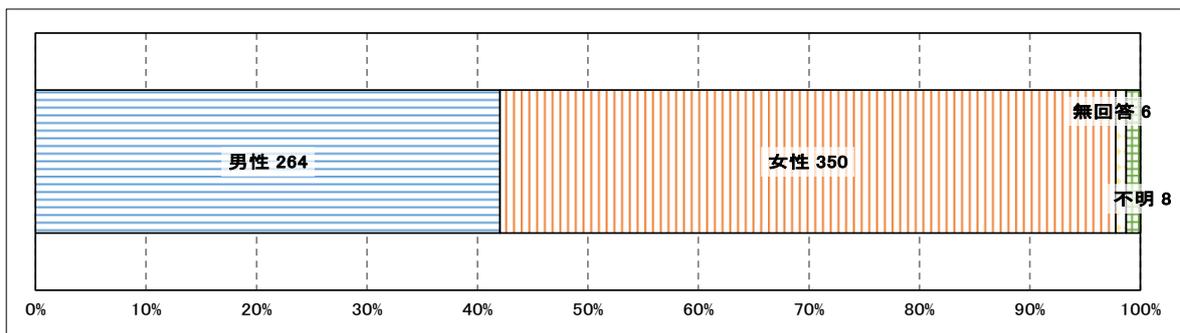


③ 性別

回答者の性別は、「男性」が264人(42.0%)、「女性」が350人(55.7%)となっています。

N=628

項目	件数	(全体)%
男性	264	42.0
女性	350	55.7
無回答	6	1.0
不明	8	1.3
合計	628	100.0

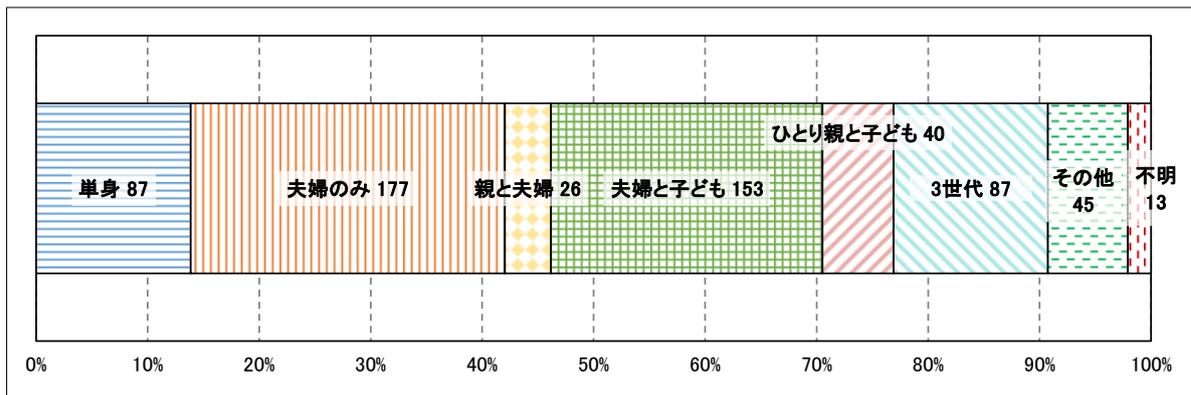


④ 家族形態

回答者の家族形態は、「夫婦のみ」が177人(28.2%)と最も多く、次いで「夫婦と子ども」が153人(24.4%)、「単身」「3世代」が87人(13.9%)となっています。

N=628

項目	件数	(全体)%
単身	87	13.9
夫婦のみ	177	28.2
親と夫婦	26	4.1
夫婦と子ども	153	24.4
ひとり親と子ども	40	6.4
3世代	87	13.9
その他	45	7.2
不明	13	2.1
合計	628	100.0

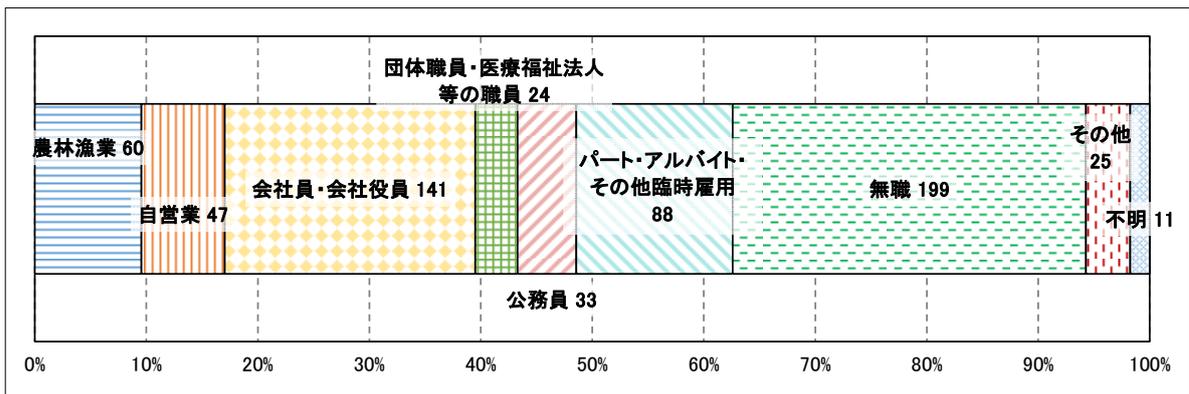


⑤ 職業

回答者の職業は、「無職」が 199 人 (31.7%) と最も多く、仕事をしている人で最も多い職業は「会社員・会社役員」が 141 人 (22.5%) となっています。

N=628

項目	件数	(全体)%
農林漁業	60	9.6
自営業	47	7.5
会社員・会社役員	141	22.5
団体職員・医療福祉法人等の職員	24	3.8
公務員	33	5.3
パート・アルバイト・その他臨時雇用	88	14.0
無職	199	31.7
その他	25	4.0
不明	11	1.8
合計	628	100.0

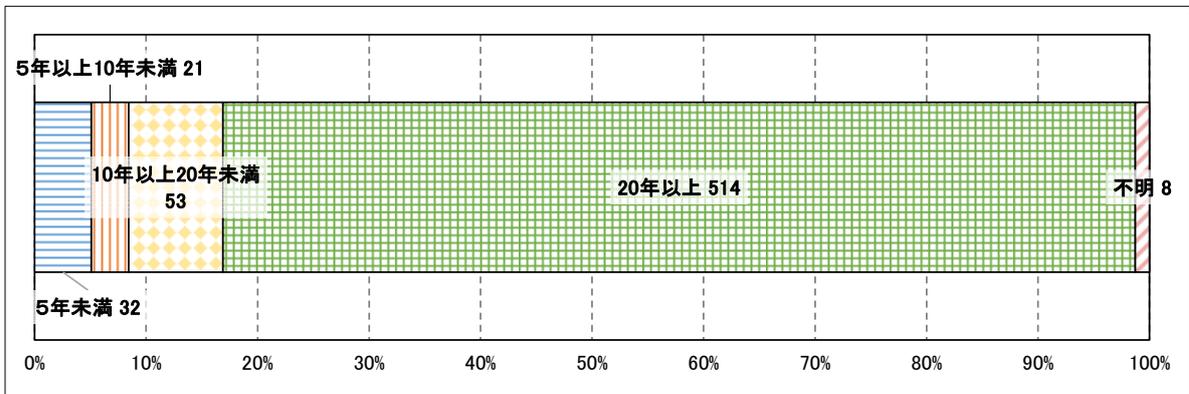


⑥ 松浦市に住んでいる期間

回答者が松浦市に住んでいる期間は、「20年以上」が514人（81.8%）と最も多く8割以上を占めています。

N=628

項目	件数	(全体)%
5年未満	32	5.1
5年以上10年未満	21	3.3
10年以上20年未満	53	8.4
20年以上	514	81.8
不明	8	1.3
合計	628	100.0

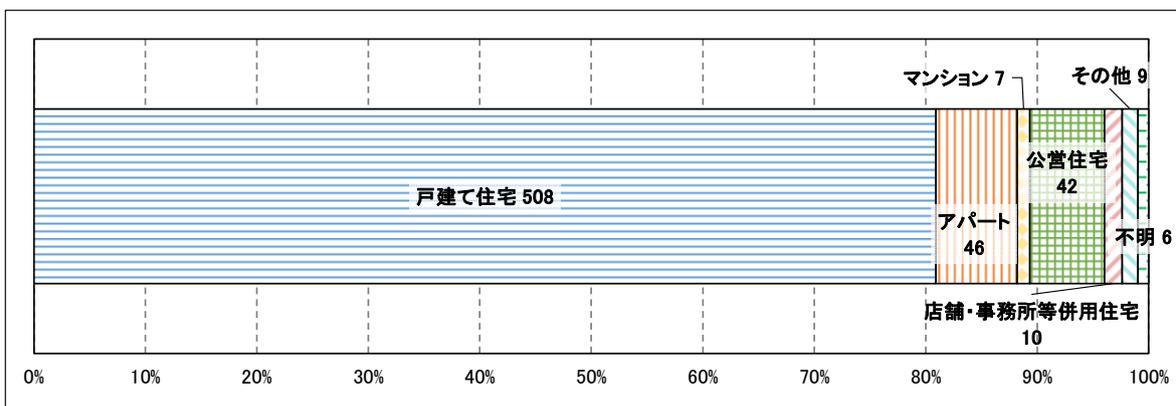


⑦ 自宅の形態

回答者の自宅の形態は、「戸建て住宅」が 508 人（80.9%）と最も多く 8 割以上を占めています。

N=628

項目	件数	(全体)%
戸建て住宅	508	80.9
アパート	46	7.3
マンション	7	1.1
公営住宅	42	6.7
店舗・事務所等併用住宅	10	1.6
その他	9	1.4
不明	6	1.0
合計	628	100.0



(2) 日常の行動範囲について

① 目的別外出の頻度

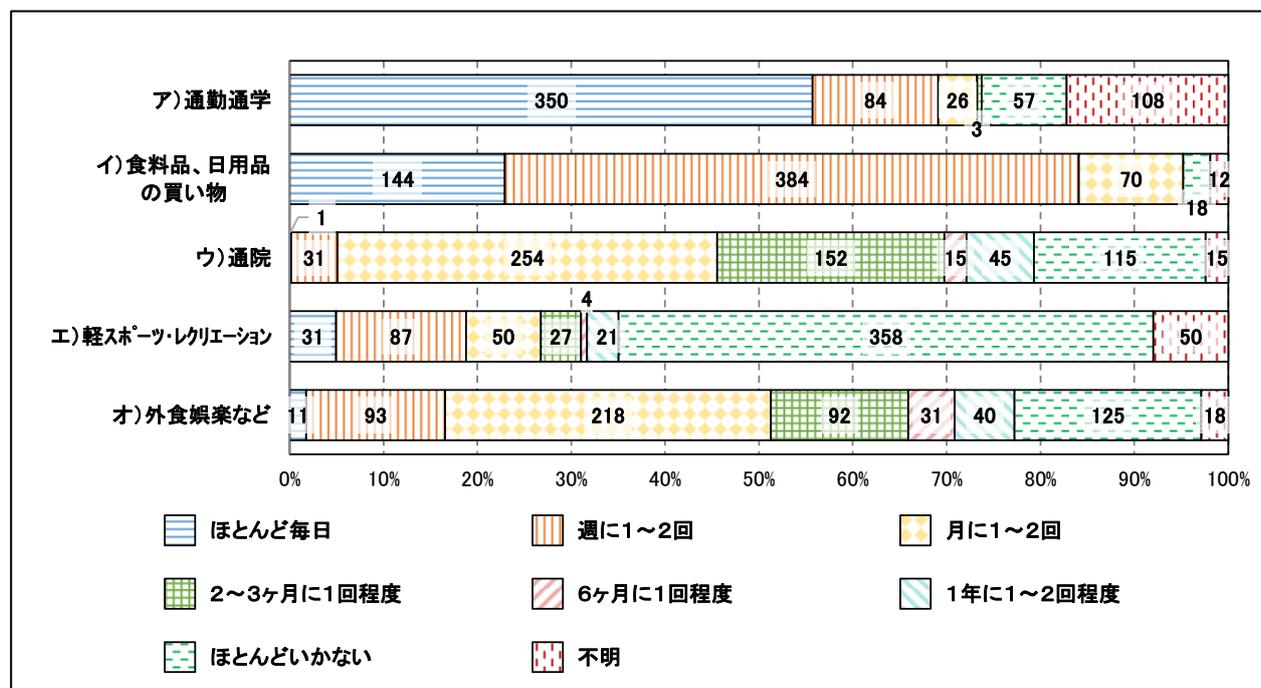
目的別の外出の頻度は、「通勤通学」は「ほとんど毎日」、「買い物」は「週に1～2回」、「通院」「外食娯楽」は「月に1～2回」、「軽スポーツ・レクリエーション」は「ほとんどいかない」が最も多くなっています。

目的別外出の頻度

N=628

	ほとんど毎日	週に1～2回	月に1～2回	2～3ヶ月に1回程度	6ヶ月に1回程度	1年に1～2回程度	ほとんどいかない	不明	合計
ア) 通勤通学	350	84	26	3	0	0	57	108	628
	55.7	13.4	4.1	0.5	0.0	0.0	9.1	17.2	100.0
イ) 食料品、日用品の買い物	144	384	70	0	0	0	18	12	628
	22.9	61.1	11.1	0.0	0.0	0.0	2.9	1.9	100.0
ウ) 通院	1	31	254	152	15	45	115	15	628
	0.2	4.9	40.4	24.2	2.4	7.2	18.3	2.4	100.0
エ) 軽スポーツ・レクリエーション	31	87	50	27	4	21	358	50	628
	4.9	13.9	8.0	4.3	0.6	3.3	57.0	8.0	100.0
オ) 外食娯楽など	11	93	218	92	31	40	125	18	628
	1.8	14.8	34.7	14.6	4.9	6.4	19.9	2.9	100.0

※上段は回答者数、下段は比率 (%)



② 目的別行き先

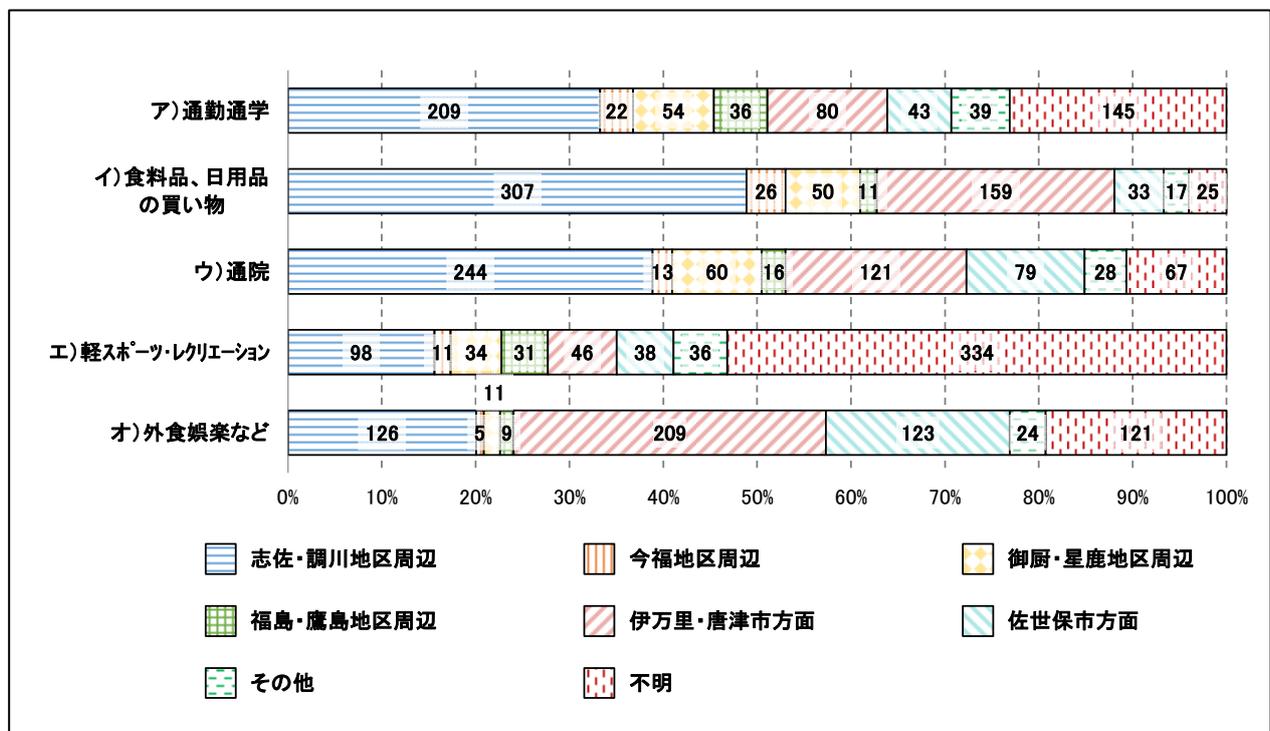
目的別の最も多い行き先は、不明を除き「通勤通学」「買い物」「通院」「軽スポーツ・レクリエーション」では「志佐・調川地区周辺」が最も多く、「外食娯楽」では「伊万里・唐津市方面」が最も多くなっています。

目的別行き先

N=628

	志佐・調川地区周辺	今福地区周辺	御厨・星鹿地区周辺	福島・鷹島地区周辺	伊万里・唐津市方面	佐世保市方面	その他	不明	合計
ア) 通勤通学	209	22	54	36	80	43	39	145	628
	33.3	3.5	8.6	5.7	12.7	6.8	6.2	23.1	100.0
イ) 食料品、日用品の買い物	307	26	50	11	159	33	17	25	628
	48.9	4.1	8.0	1.8	25.3	5.3	2.7	4.0	100.0
ウ) 通院	244	13	60	16	121	79	28	67	628
	38.9	2.1	9.6	2.5	19.3	12.6	4.5	10.7	100.0
エ) 軽スポーツ・レクリエーション	98	11	34	31	46	38	36	334	628
	15.6	1.8	5.4	4.9	7.3	6.1	5.7	53.2	100.0
オ) 外食娯楽など	126	5	11	9	209	123	24	121	628
	20.1	0.8	1.8	1.4	33.3	19.6	3.8	19.3	100.0

※上段は回答者数、下段は比率（%）



③ 目的別交通手段

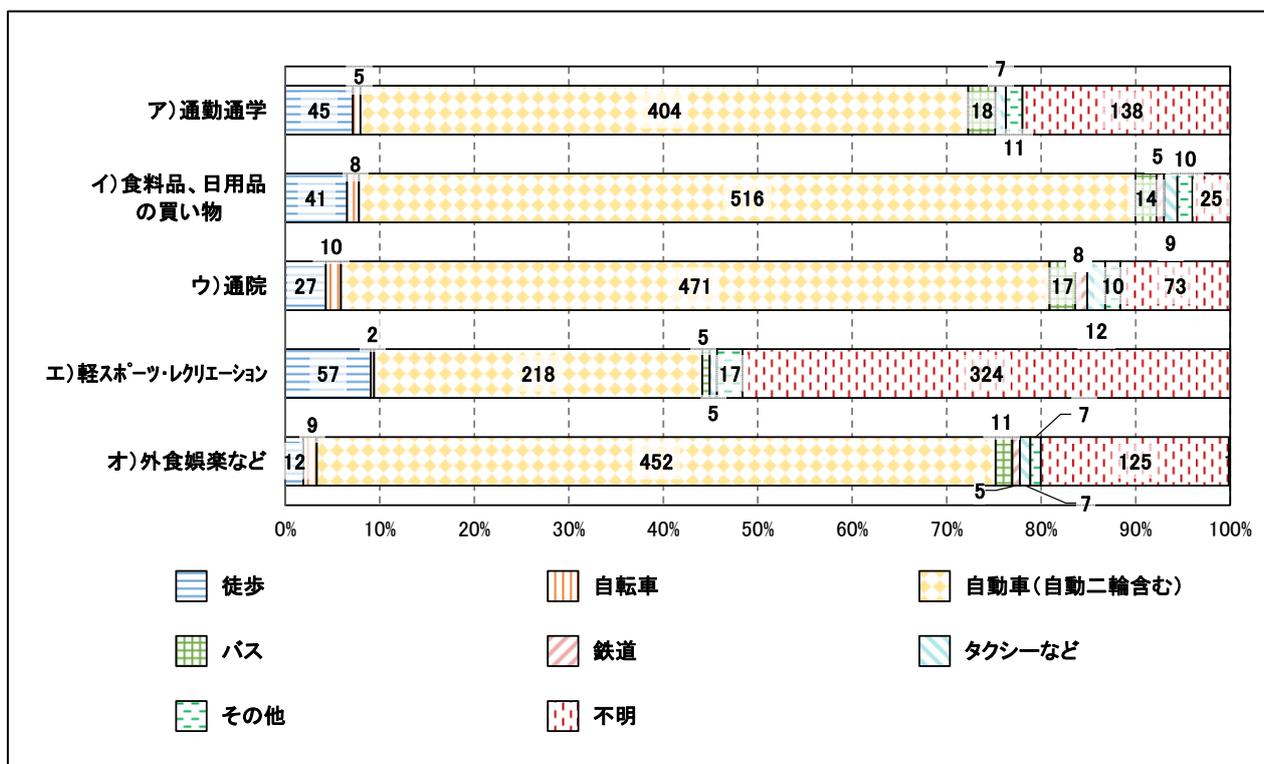
目的別の最も多い交通手段は、不明を除きどのような目的においても「自動車（自動二輪含む）」の利用が最も多くなっています。

目的別交通手段

N=628

	徒歩	自転車	自動車 (自動二輪含む)	バス	鉄道	タクシー など	その他	不明	合計
ア) 通勤通学	45	5	404	18	0	7	11	138	628
	7.2	0.8	64.3	2.9	0.0	1.1	1.8	22.0	100.0
イ) 食料品、日用品の 買い物	41	8	516	14	5	9	10	25	628
	6.5	1.3	82.2	2.2	0.8	1.4	1.6	4.0	100.0
ウ) 通院	27	10	471	17	8	12	10	73	628
	4.3	1.6	75.0	2.7	1.3	1.9	1.6	11.6	100.0
エ) 軽スポーツ・レクリエーション	57	2	218	5	0	5	17	324	628
	9.1	0.3	34.7	0.8	0.0	0.8	2.7	51.6	100.0
オ) 外食娯楽 など	12	9	452	11	5	7	7	125	628
	1.9	1.4	72.0	1.8	0.8	1.1	1.1	19.9	100.0

※上段は回答者数、下段は比率 (%)



(3) 居住する地区について

① 暮らしやすさの満足度

暮らしやすさについて、加重平均法*にて満足度を算定しました。

満足度が高いものでは「豊かな自然環境」(4.52)、「騒音など公害のない生活」(2.71)などで、低いものでは「働く場の豊富さ」(-3.99)があげられます。また、「全般的な暮らしやすさ」については半数以上の人が「どちらともいえない」と答えています。

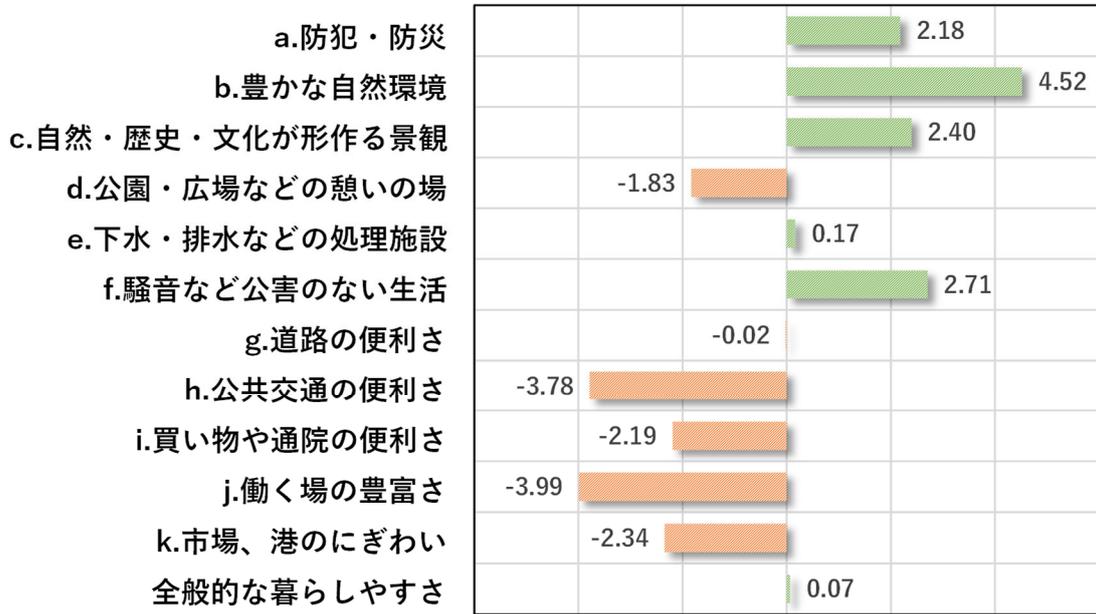
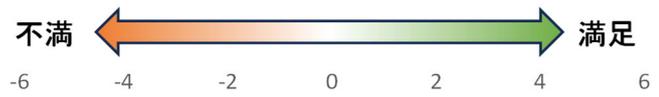
※加重平均：重要度を加味した重み付き平均のことで、本分析においては満足度を算定するために用いられる。各回答項目に対する重み付け(ウエート)は、「満足」は+10ポイント、「どちらかといえば満足」は+5ポイント、「どちらともいえない」は0ポイント、「どちらかといえば不満」は-5ポイント、「不満」は-10ポイントのウエートを獲得票数に乘じ、回答数の合計で除した値を満足度としています。

暮らしやすさの満足度

N=628

	満足	どちらか といえば 満足	どちらとも いえない	どちらか といえば 不満	不満	無回答	合計	満足度
a. 防犯・防災	69 11.0	184 29.3	299 47.6	38 6.1	11 1.8	27 4.3	628 100.0	2.18
b. 豊かな自然環境	180 28.7	224 35.7	174 27.7	23 3.7	6 1.0	21 3.3	628 100.0	4.52
c. 自然・歴史・文化が 形作る景観	88 14.0	187 29.8	264 42.0	47 7.5	14 2.2	28 4.5	628 100.0	2.40
d. 公園・広場などの 憩いの場	17 2.7	63 10.0	269 42.8	180 28.7	68 10.8	31 4.9	628 100.0	-1.83
e. 下水・排水などの 処理施設	65 10.4	98 15.6	282 44.9	104 16.6	52 8.3	27 4.3	628 100.0	0.17
f. 騒音など公害 のない生活	116 18.5	188 29.9	222 35.4	63 10.0	15 2.4	24 3.8	628 100.0	2.71
g. 道路の便利さ	37 5.9	123 19.6	286 45.5	111 17.7	44 7.0	27 4.3	628 100.0	-0.02
h. 公共交通の便利さ	15 2.4	33 5.3	195 31.1	202 32.2	159 25.3	24 3.8	628 100.0	-3.78
i. 買い物や通院 の便利さ	26 4.1	76 12.1	222 35.4	161 25.6	115 18.3	28 4.5	628 100.0	-2.19
j. 働く場の豊富さ	6 1.0	30 4.8	188 29.9	195 31.1	151 24.0	58 9.2	628 100.0	-3.99
k. 市場、港のにぎわい	8 1.3	41 6.5	287 45.7	167 26.6	82 13.1	43 6.8	628 100.0	-2.34
全般的な暮らしやすさ	23 3.7	131 20.9	320 51.0	89 14.2	40 6.4	25 4.0	628 100.0	0.07

※上段は回答者数、下段は比率(%)



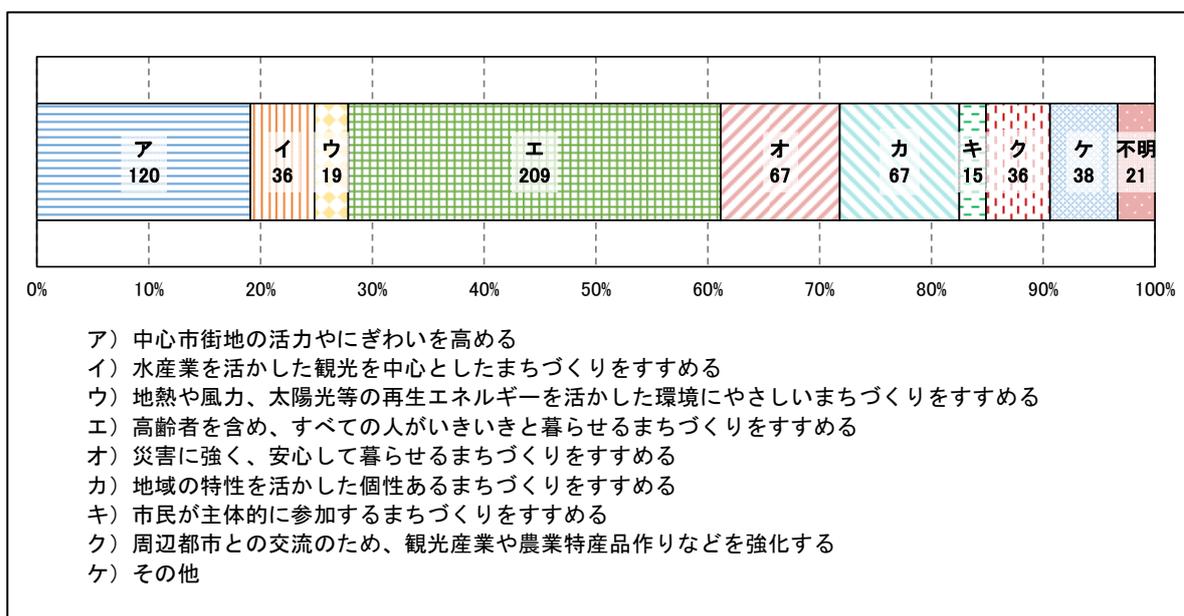
(4) 松浦市の今後のまちづくりについて

① 松浦市のまちづくりについて

松浦市のまちづくりにおいて重要な課題は、「高齢者を含め、すべての人がいきいきと暮らせるまちづくりをすすめる」が 209 人 (33.3%) と最も多く、次いで「中心市街地の活力やにぎわいを高める」が 120 人 (19.1%) となっています。

N = 628

項目	件数	(全体)%
中心市街地の活力やにぎわいを高める	120	19.1
水産業を活かした観光を中心としたまちづくりをすすめる	36	5.7
地熱や風力、太陽光等の再生エネルギーを活かした環境にやさしいまちづくりをすすめる	19	3.0
高齢者を含め、すべての人がいきいきと暮らせるまちづくりをすすめる	209	33.3
災害に強く、安心して暮らせるまちづくりをすすめる	67	10.7
地域の特性を活かした個性あるまちづくりをすすめる	67	10.7
市民が主体的に参加するまちづくりをすすめる	15	2.4
周辺都市との交流のため、観光産業や農業特産品作りなどを強化する	36	5.7
その他	38	6.1
不明	21	3.3
合計	628	100.0

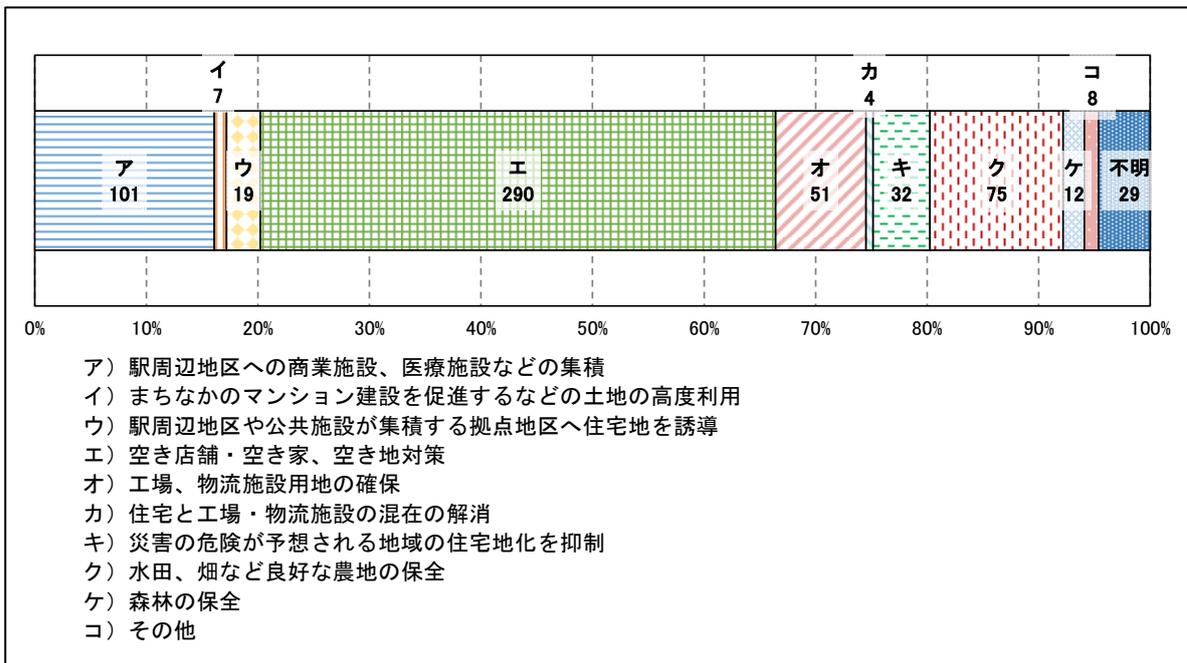


② 土地利用について

これからの土地利用について重要だと思われる取組は、「空き店舗・空き家、空き地対策」が290人（46.2%）と最も多く、次いで「駅周辺地区への商業施設、医療施設などの集積」が101人（16.1%）となっています。

N=628

項目	件数	(全体)%
駅周辺地区への商業施設、医療施設などの集積	101	16.1
まちなかのマンション建設を促進するなどの土地の高度利用	7	1.1
駅周辺地区や公共施設が集積する拠点地区へ住宅地を誘導	19	3.0
空き店舗・空き家、空き地対策	290	46.2
工場、物流施設用地の確保	51	8.1
住宅と工場・物流施設の混在の解消	4	0.6
災害の危険が予想される地域の住宅地化を抑制	32	5.1
水田、畑など良好な農地の保全	75	11.9
森林の保全	12	1.9
その他	8	1.3
不明	29	4.6
合計	628	100.0

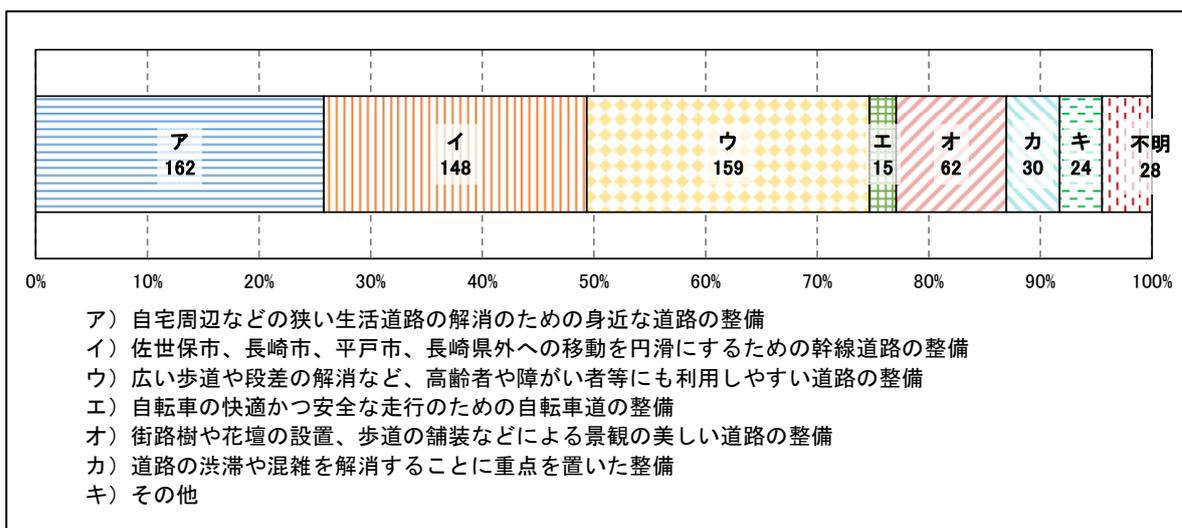


③ 道路について

これからの道路整備について重要だと思われる取組は、「自宅周辺などの狭い生活道路の解消のための身近な道路の整備」が 162 人 (25.8%) と最も多く、次いで「広い歩道や段差の解消など、高齢者や障がい者等にも利用しやすい道路の整備」が 159 人 (25.3%)、「佐世保市、長崎市、平戸市、長崎県外への移動を円滑にするための幹線道路の整備」が 148 人 (23.6%) となっています。

N=628

項目	件数	(全体)%
自宅周辺などの狭い生活道路の解消のための身近な道路の整備	162	25.8
佐世保市、長崎市、平戸市、長崎県外への移動を円滑にするための幹線道路の整備	148	23.6
広い歩道や段差の解消など、高齢者や障がい者等にも利用しやすい道路の整備	159	25.3
自転車の快適かつ安全な走行のための自転車道の整備	15	2.4
街路樹や花壇の設置、歩道の舗装などによる景観の美しい道路の整備	62	9.9
道路の渋滞や混雑を解消することに重点を置いた整備	30	4.8
その他	24	3.8
不明	28	4.5
合計	628	100.0

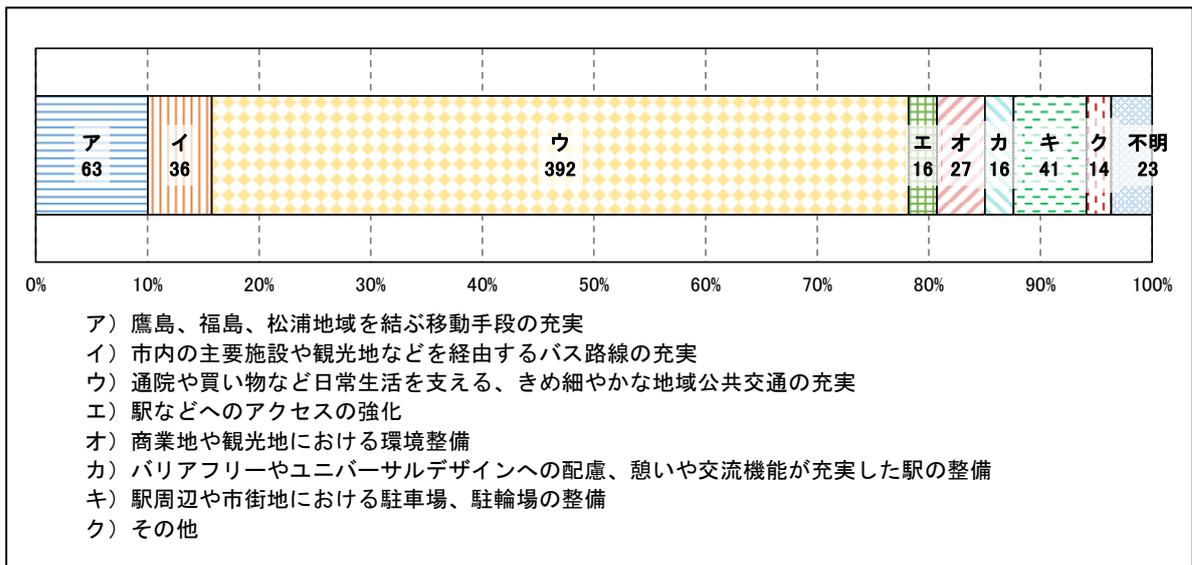


④ 公共交通について

これからの公共交通や交通環境について重要だと思われる取組は、「通院や買い物など日常生活を支える、きめ細やかな地域公共交通の充実」が 392 人（62.4%）と最も多く 6 割以上を占めています。

N=628

項目	件数	(全体)%
鷹島、福島、松浦地域を結ぶ移動手段の充実	63	10.0
市内の主要施設や観光地などを経由するバス路線の充実	36	5.7
通院や買い物など日常生活を支える、きめ細やかな地域公共交通の充実	392	62.4
駅などへのアクセスの強化	16	2.5
商業地や観光地における環境整備	27	4.3
バリアフリーやユニバーサルデザインへの配慮、憩いや交流機能が充実した駅の整備	16	2.5
駅周辺や市街地における駐車場、駐輪場の整備	41	6.5
その他	14	2.2
不明	23	3.7
合計	628	100.0

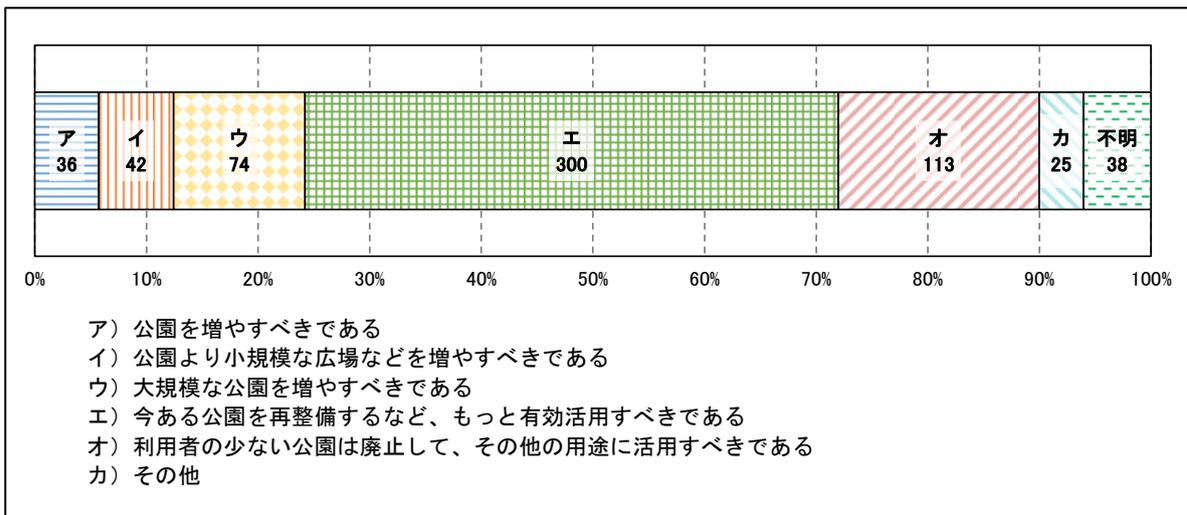


⑤ 公園・広場について

公園や広場の整備については、「今ある公園を再整備するなど、もっと有効活用すべきである」が 300 人（47.8%）と最も多く、次いで「利用者の少ない公園は廃止して、その他の用途に活用すべきである」が 113 人（18%）となっています。

N=628

項目	件数	(全体)%
公園を増やすべきである	36	5.7
公園より小規模な広場などを増やすべきである	42	6.7
大規模な公園を増やすべきである	74	11.8
今ある公園を再整備するなど、もっと有効活用すべきである	300	47.8
利用者の少ない公園は廃止して、その他の用途に活用すべきである	113	18.0
その他	25	4.0
不明	38	6.1
合計	628	100.0

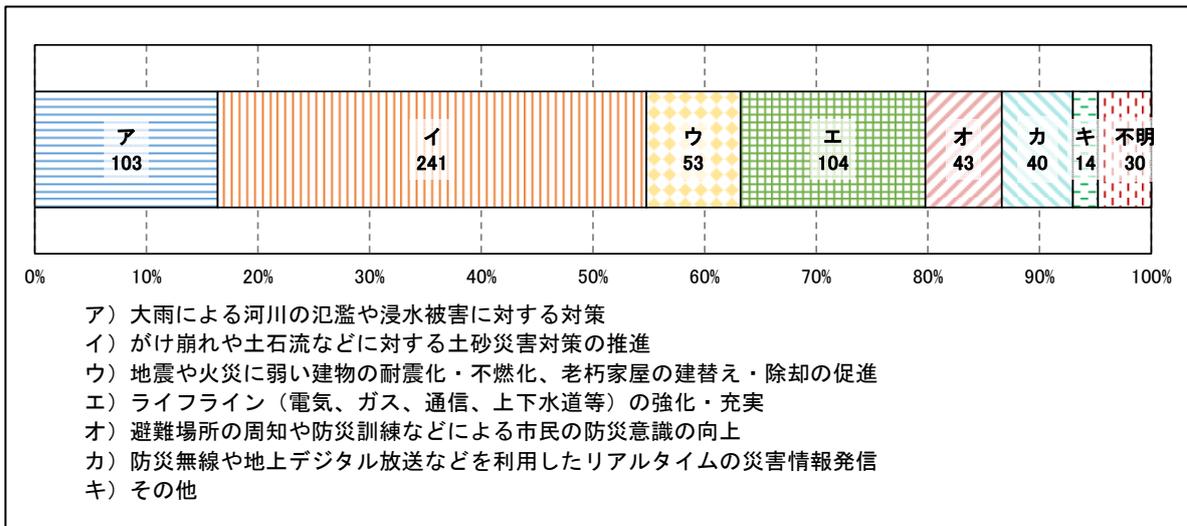


⑥ 防災について

災害に強いまちづくりのために重要だと思われる取組は、「がけ崩れや土石流などに対する土砂災害対策の推進」が 241 人 (38.4%) と最も多く、次いで「ライフライン（電気、ガス、通信、上下水道等）の強化・充実」が 104 人 (16.6%)、「大雨による河川の氾濫や浸水被害に対する対策」が 103 人 (16.4%) となっています。

N=628

項目	件数	(全体)%
大雨による河川の氾濫や浸水被害に対する対策	103	16.4
がけ崩れや土石流などに対する土砂災害対策の推進	241	38.4
地震や火災に弱い建物の耐震化・不燃化、老朽家屋の建替え・除却の促進	53	8.4
ライフライン（電気、ガス、通信、上下水道等）の強化・充実	104	16.6
避難場所の周知や防災訓練などによる市民の防災意識の向上	43	6.8
防災無線や地上デジタル放送などを利用したリアルタイムの災害情報発信	40	6.4
その他	14	2.2
不明	30	4.8
合計	628	100.0

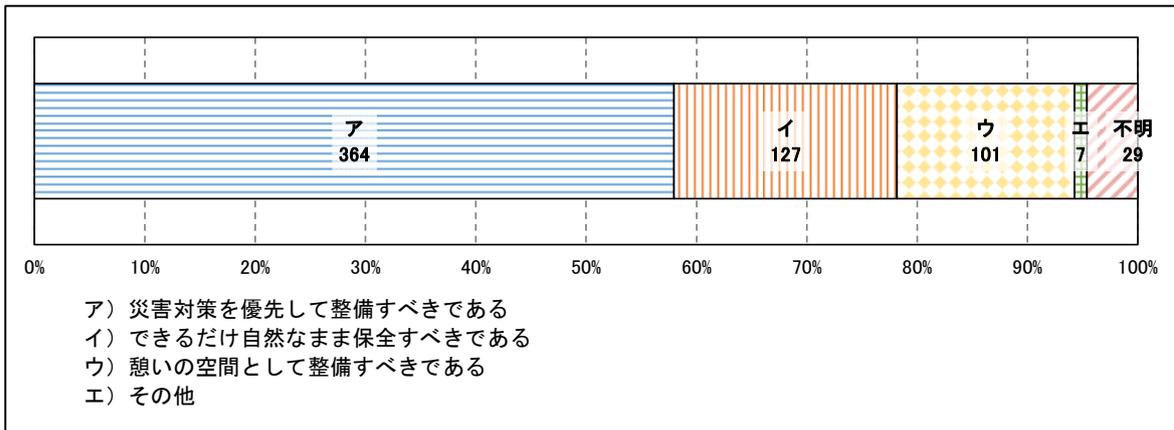


⑦ 海岸・河川・ため池について

海岸、河川及びため池の利用については、「災害対策を優先して整備すべきである」が 364 人（58%）と最も多く、次いで「できるだけ自然なまま保全すべきである」が 127 人（20.2%）、「憩いの空間として整備すべきである」が 101 人（16.1%）となっています。

N=628

項目	件数	(全体)%
災害対策を優先して整備すべきである	364	58.0
できるだけ自然なまま保全すべきである	127	20.2
憩いの空間として整備すべきである	101	16.1
その他	7	1.1
不明	29	4.6
合計	628	100.0

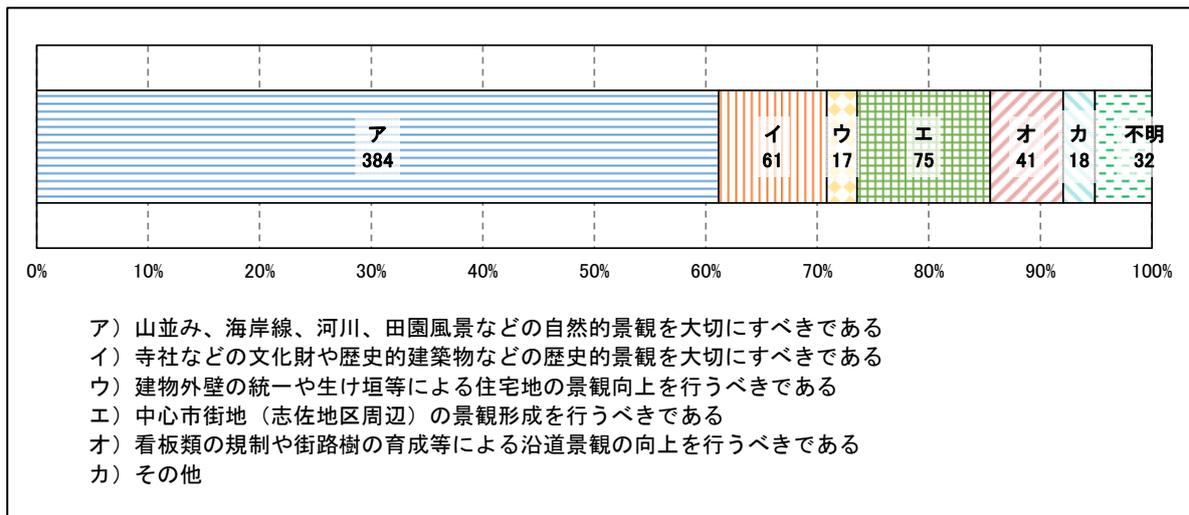


⑧ 景観について

景観形成については、「山並み、海岸線、河川、田園風景などの自然的景観を大切にすべきである」が384人（61.1%）と最も多く6割以上を占めています。

N=628

項目	件数	(全体)%
山並み、海岸線、河川、田園風景などの自然的景観を大切にすべきである	384	61.1
寺社などの文化財や歴史的建築物などの歴史的景観を大切にすべきである	61	9.7
建物外壁の統一や生け垣等による住宅地の景観向上を行うべきである	17	2.7
中心市街地（志佐地区周辺）の景観形成を行うべきである	75	11.9
看板類の規制や街路樹の育成等による沿道景観の向上を行うべきである	41	6.5
その他	18	2.9
不明	32	5.1
合計	628	100.0



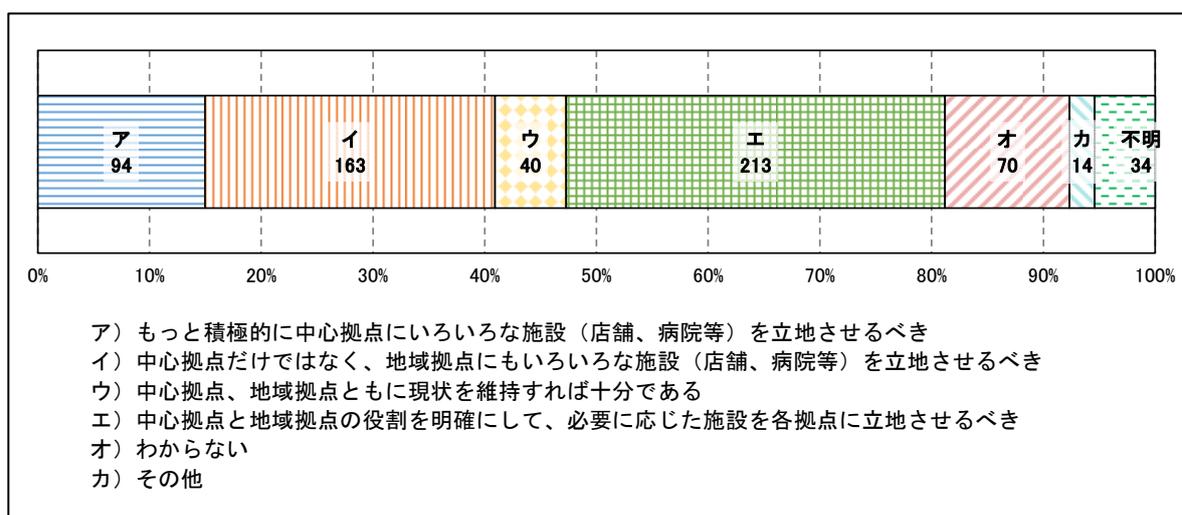
(5) まちづくりの進め方について

① 各拠点の方向性について

各拠点の方向性については、「中心拠点と地域拠点の役割を明確にして、必要に応じた施設を各拠点に立地させるべき」が 213 人 (33.9%) と最も多く、次いで「中心拠点だけではなく、地域拠点にもいろいろな施設（店舗、病院等）を立地させるべき」が 163 人 (26%) となっています。

N=628

項目	件数	(全体)%
もっと積極的に中心拠点にいろいろな施設（店舗、病院等）を立地させるべき	94	15.0
中心拠点だけではなく、地域拠点にもいろいろな施設（店舗、病院等）を立地させるべき	163	26.0
中心拠点、地域拠点ともに現状を維持すれば十分である	40	6.4
中心拠点と地域拠点の役割を明確にして、必要に応じた施設を各拠点に立地させるべき	213	33.9
わからない	70	11.1
その他	14	2.2
不明	34	5.4
合計	628	100.0



② コンパクトな都市づくり*について（複数回答あり）

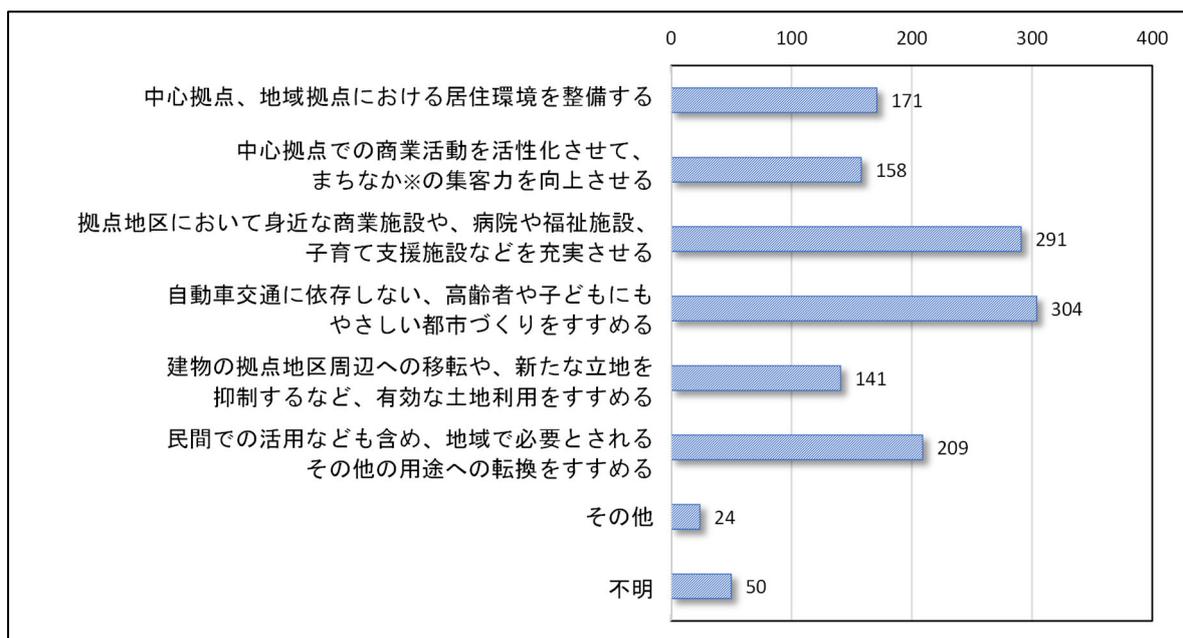
コンパクトな都市づくりについては、「自動車交通に依存しない、高齢者や子どもにもやさしい都市づくりをすすめる」が304人（48.4%）と最も多く、次いで「拠点地区において身近な商業施設や、病院や福祉施設、子育て支援施設などを充実させる」が291人（46.3%）、「民間での活用なども含め、地域で必要とされるその他の用途への転換をすすめる」が209人（33.3%）となっています。

N=628

項目	件数	(全体)%
中心拠点、地域拠点における居住環境を整備する	171	27.2
中心拠点での商業活動を活性化させて、まちなか*の集客力を向上させる	158	25.2
拠点地区において身近な商業施設や、病院や福祉施設、子育て支援施設などを充実させる	291	46.3
自動車交通に依存しない、高齢者や子どもにもやさしい都市づくりをすすめる	304	48.4
建物の拠点地区周辺への移転や、新たな立地を抑制するなど、有効な土地利用をすすめる	141	22.5
民間での活用なども含め、地域で必要とされるその他の用途への転換をすすめる	209	33.3
その他	24	3.8
不明	50	8.0
合計	1,348	—

※1：「コンパクトな都市づくり」は、これまで市街地拡大や郊外開発を推進していた都市づくりの政策を、少子・高齢化、市街地活性化、環境保全といった状況や問題を踏まえて、大きく政策転換したもので、「環境負荷が少なく、多様な世代が快適で魅力ある都市生活を身近なまちなかで送ることができる都市づくり」をいい、「これからのまちづくり」の方針とされています。

※2：「まちなか」とは、歴史や文化、商業・業務・サービスなどの都市機能が集積する地域をいいます。

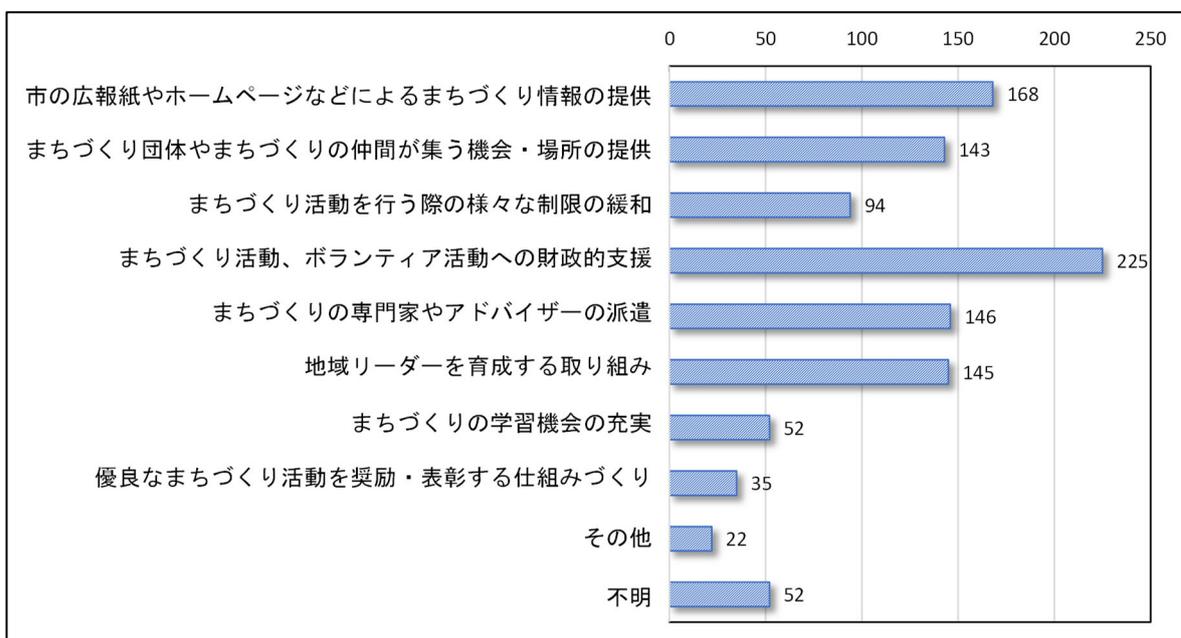


③ サポートについて（複数回答あり）

地域がまちづくりに取り組むため、必要なサポートについては、「まちづくり活動、ボランティア活動への財政的支援」が 225 人（35.8%）と最も多く、次いで「市の広報紙やホームページなどによるまちづくり情報の提供」が 168 人（26.8%）となっています。

N=628

項目	件数	(全体)%
市の広報紙やホームページなどによるまちづくり情報の提供	168	26.8
まちづくり団体やまちづくりの仲間が集う機会・場所の提供	143	22.8
まちづくり活動を行う際の様々な制限の緩和	94	15.0
まちづくり活動、ボランティア活動への財政的支援	225	35.8
まちづくりの専門家やアドバイザーの派遣	146	23.2
地域リーダーを育成する取り組み	145	23.1
まちづくりの学習機会の充実	52	8.3
優良なまちづくり活動を奨励・表彰する仕組みづくり	35	5.6
その他	22	3.5
不明	52	8.3
合計	1,082	—



④ まちづくり活動について

今後も、市民と行政が協働してまちづくりに取り組むことが重要ですが、まちづくり活動については、「時間に余裕があれば参加したい」が 168 人（26.8%）と最も多く、次いで「気の合う仲間と一緒に参加する」が 151 人（24%）となっています。

N=628

項目	件数	(全体)%
既にまちづくり活動に参加している	18	2.9
積極的に参加していきたい	32	5.1
時間に余裕があれば参加したい	168	26.8
参加したいが、参加の方法が分からない	46	7.3
誘われれば参加する	46	7.3
気の合う仲間と一緒に参加する	151	24.0
関心が無い	88	14.0
その他	35	5.6
不明	44	7.0
合計	628	100.0

